

会社概要

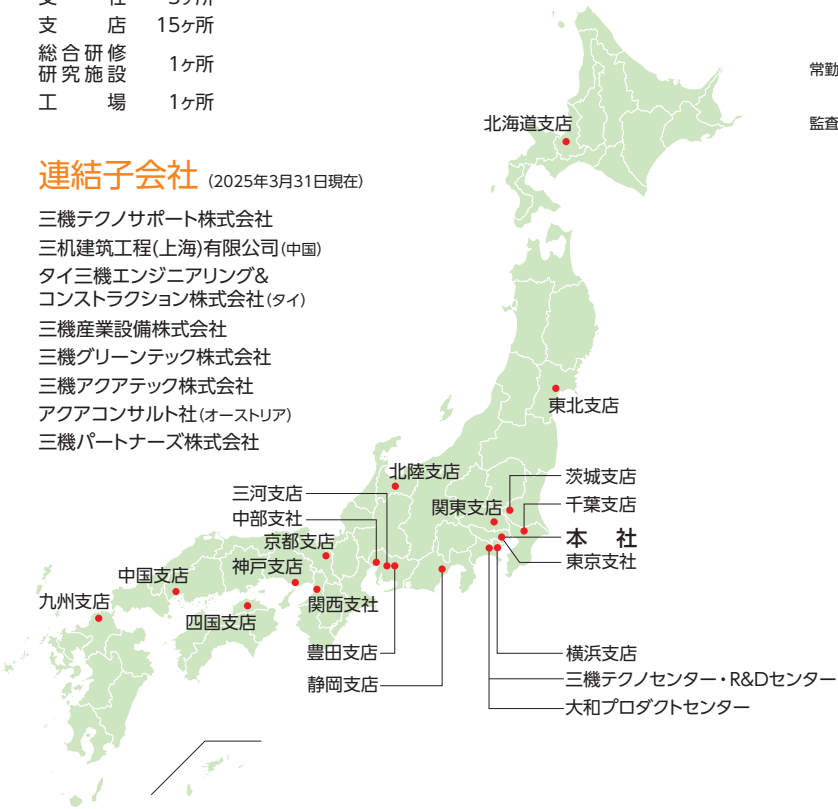
会 社 名	三機工業株式会社
英文社名	SANKI ENGINEERING CO.LTD
創 立	1925年4月22日
資 本 金	81億518万円（2025年3月31日現在）
事業内容	建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業
従業員数	連結 2,653名 個別 2,102名 （2025年3月31日現在）

事業所一覧（2025年3月31日現在）

支 社	3ヶ所
支 店	15ヶ所
総合研修 研究施設	1ヶ所
工 場	1ヶ所

連結子会社（2025年3月31日現在）

三機テクノサポート株式会社
三机建筑工程(上海)有限公司(中国)
タイ三機エンジニアリング&
コンストラクション株式会社(タイ)
三機産業設備株式会社
三機グリーンテック株式会社
三機アクアテック株式会社
アクアコンサルト社(オーストリア)
三機パートナーズ株式会社



役員（2025年6月26日現在）

○取締役および監査役		○執行役員	
代表取締役会長	長谷川 勉	専務執行役員	工藤 正之
代表取締役社長	石田 博一		飯嶋 和明
取締役	工藤 正之		新保 順一
	飯嶋 和明	常務執行役員	川辺 善生
	新保 順一		勝野 耕治
	川辺 善生		波多野 宏行
	名古屋 和宏		苅部 郁生
	山本 幸央		成瀬 安計
	柏倉 和彦		奥野 竜久
	河野 圭志	執行役員	名古屋 和宏
	松田 明彦		門脇 公夫
	梅田 珠実		本川 忠行
常勤監査役	館 邦彦		砂田 直人
	山中 庸詳		山崎 泰弘
監査役	藤田 昇三		浜坂 順一
	跡見 裕		梅沢 昭仁
	江頭 敏明		中川 勇人
			清水 哲
			濱本 聖次
			花淵 公一
			藤江 茂樹
			五十嵐 孝之
			川口 淳二
			橋本 直樹
			塚根 隆行
			古谷 伸之
			唐沢 邦夫
			東 勝彦
			岩岡 亨
			吉田 智明
			杉阪 和彦
			佐古 俊晴
			日下部 智久
			湊 洋行
			大河内 保

株主通信

決算のご報告

〔2025年3月期〕
2024年4月1日～2025年3月31日

証券コード：1961



Contents

To Our Shareholders 「ごあいさつ」	2
Top Message トップメッセージ	3
Management Vision and Medium-Term Management Plan 特集①：経営ビジョン・中期経営計画	5
100th Anniversary Events 特集②：100周年記念事業	9
SANKI Construction Case Study 特集③：施工事例紹介	11
Consolidated Financial Data 連結財務データ	13
Stock Information 株式データ	14
Corporate Data 会社データ	裏表紙



三機工業グループ経営理念
「三機スタンダード」

エンジニアリングをつうじて 快適環境を創造し 広く社会の発展に貢献する

技術と英知を磨き、顧客満足の向上に努める
コミュニケーションを重視し、相互に尊重する
社会の一員であることを意識し、行動する

To Our Shareholders

ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

おかげさまで三機工業は、2025年4月22日をもって創立100周年を迎えました。この大きな節目に至るまで、当社グループ事業の成長と発展を長年支えていただきました株主の皆さまにあらためて深く感謝いたします。

関東大震災から間もない1925年、旧三井物産機械部から独立し、12名で立ち上げた当社は、震災復興を支えるべく建築設備工事を請け負い、暖房設備を手掛けることから歩み始めました。その後、時代の変化とともに社会の要請に応え、さまざまな分野において事業を展開していくなかで、技術を磨き上げながら、日本の発展を支える一翼を担ってきたと自負しております。

私たちは、この創立100周年を機に定めたコーポレートメッセージ「人に快適を。地球に最適を。」のもと、次の100年に向けた一步を踏み出すべく、経営ビジョン“MIRAI 2030”を発表し、新たな3ヵ年計画「中期経営計画2027」をスタートさせました。高い成果を上げた前長期ビジョン“**Century 2025**”の取り組みを引き継ぎ、「深化と共創」による飛躍を遂げてまいります。

これからの三機工業が実現していく豊かな未来にご期待ください。

2025年6月



代表取締役社長

石田 博一

人に快適を。地球に最適を。





[2025年3月期の総括]

建築設備の大型案件が受注の伸びを牽引。
大幅に増収し、各段階利益で過去最高を更新。

当期の国内経済は、物価上昇の影響を受けながらも景気の緩やかな回復を継続したものの、米国新政権の発足後は、相互関税などの諸政策の波及が懸念される状況となりました。そうしたなかで建設投資は、半導体製造工場やデータセンターの建設が相次ぐなど、堅調に推移しました。当社グループでは、大型案件を獲得した建築設備事業が受注高を伸ばし、建築設備および環境システム事業で増収および増益を果たしたことにより、全体の売上高も前期実績を大きく上回り、各段階利益で過去最高を更新しました。

営業状況を事業ごとに振り返ると、建築設備事業は、前述のとおり大型案件の獲得で受注高が拡大し、前期比19.1%増となりました。売上高は、繰越工事の順調な進捗により同14.5%増と伸長し、利益も大きく増加しました。プラント設備事業のうち機械システム事業は、受注高が同2.8%減にとどまる一方、売上高は同3.2%増となり、セグメント損益は改善しました。環境システム事業は、受注高が前期の反動で同5.6%減となりましたが、繰越工事の進捗により売上高が同18.5%増と拡大し、大幅な利益改善を遂げました。

以上により当期の連結業績は、受注高2,649億円(前期比14.0%増)、期末繰越受注高2,107億円(同5.9%増)を確保し、不動産事業と合わせた売上高は2,531億円(同14.1%増)となりました。利益面は、売上総利益474億円(同37.1%増)、営業利益218億円(同88.9%増)、経常利益230億円(同80.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益172億円(同92.2%増)となりました。

[新しい中期経営計画をスタート]

2030年に向けた経営ビジョンを実現すべく
「深化と共創」をテーマに成長を目指す3年間。

中期経営計画“Century 2025”Phase3(2023年3月期～2026年3月期)は、施工体制強化に向けた取り組みの奏功により、業績目標の「売上高2,200億円」「売上総利益360億円」「経常利益120億円」を1年前倒しで達成いたしました。

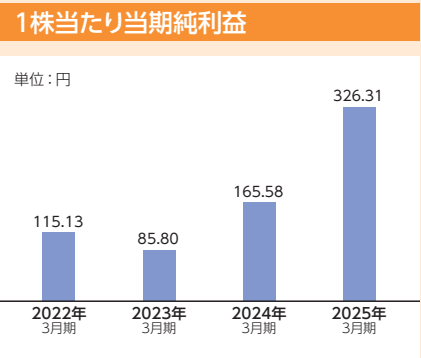
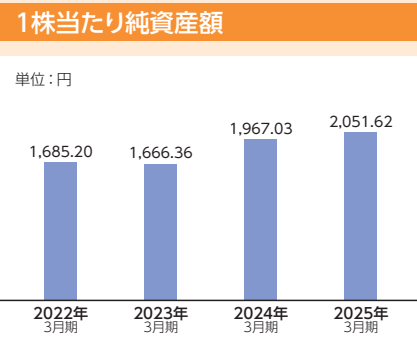
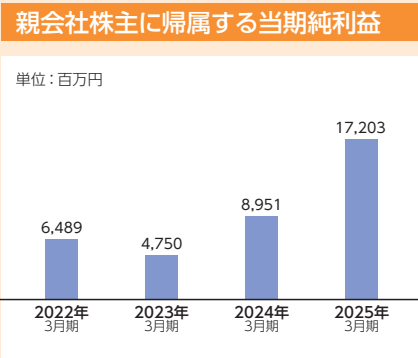
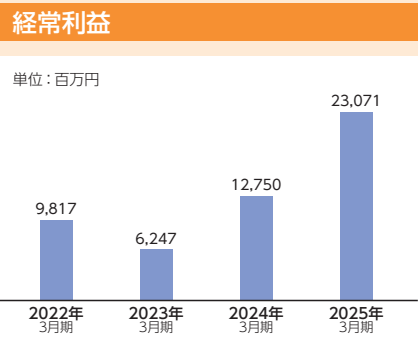
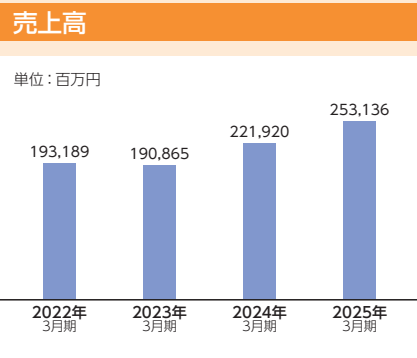
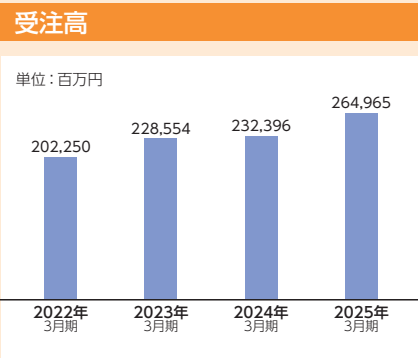
当社グループはこの成果を踏まえ、2030年に向けた経営ビジョン“MIRAI 2030”および「中期経営計画2027」(2026年3月期～2028年3月期)を策定、スタートしました。中期経

営計画は、“MIRAI 2030”が示す「2030年 ありたい姿」を実現していく最初の3年間として、重点テーマ「深化と共創」を実践し、3年後の2028年3月期に「売上高3,000億円」「営業利益300億円」の達成、また、期間経営目標として「ROE 16.0%以上」の維持を目指します。

計画初年度の2026年3月期は、受注高2,400億円(当期比9.4%減)、売上高2,500億円(同1.2%減)、営業利益245億円(同11.9%増)、経常利益250億円(同8.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益195億円(同13.3%増)を見込んでいます。経済情勢の不透明感と繰越工事の施工体制を考慮し、受注高・売上高については若干の減少を想定しつつも、利益面は良好な受注環境のなか、引き続き改善が進むものと見ています。

なお、計画期間中の株主還元は、純資産配当率(DOE)5.0%以上の配当水準を維持し、自己株式を機動的に取得する方針としました。これに基づき2026年3月期の年間配当額は、1株当たり165円(中間・期末とも82.5円)を予定しています。

株主の皆さまにおかれましては、これからも長きにわたり厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

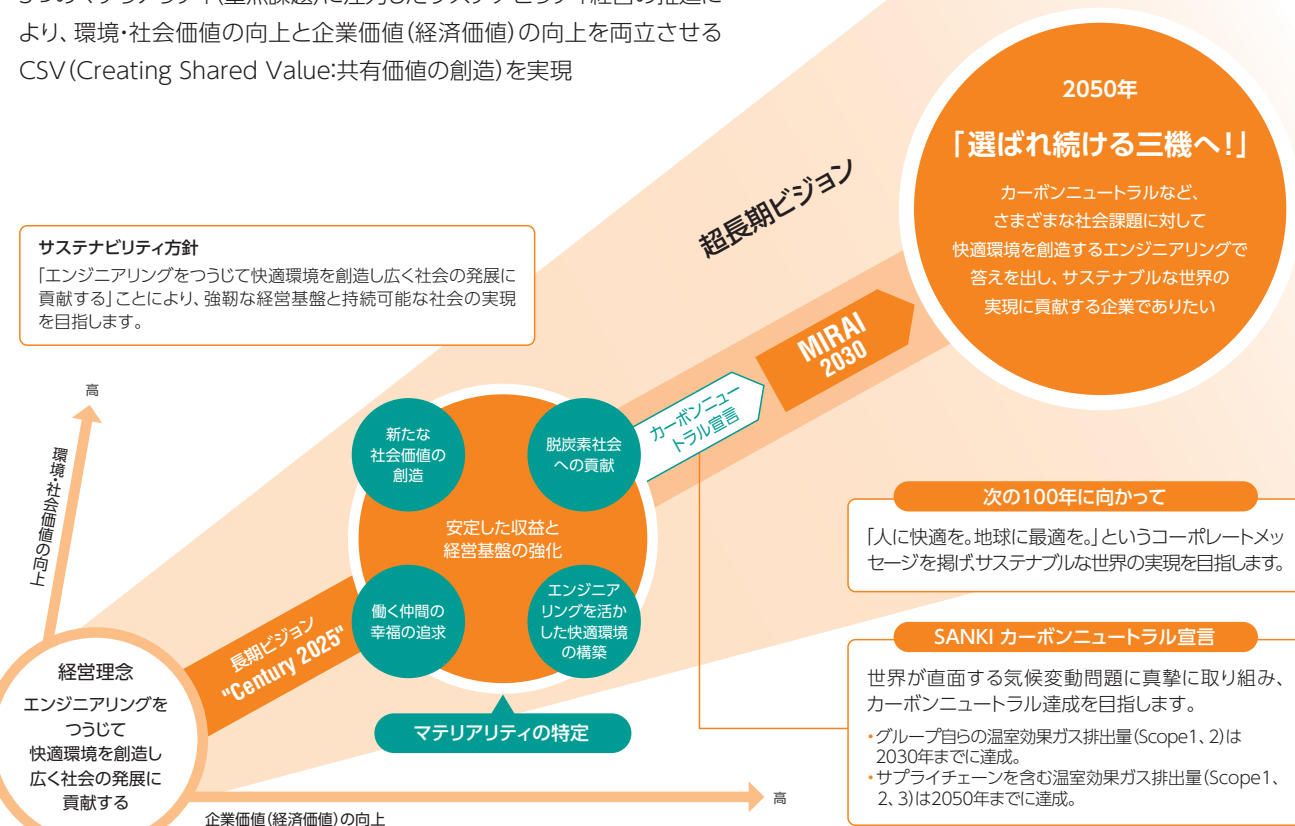


経営ビジョン“MIRAI 2030”および「中期経営計画2027」策定

当社グループは、創立100周年を新たな出発点と位置づけ、業績目標を早期に達成した長期ビジョン“Century 2025”を1年前倒しで終了し、2030年度までの期間を対象とする経営ビジョン“MIRAI 2030”、および2027年度までの3か年を対象とする「中期経営計画2027」を策定しました。

・三機工業グループの超長期ビジョン

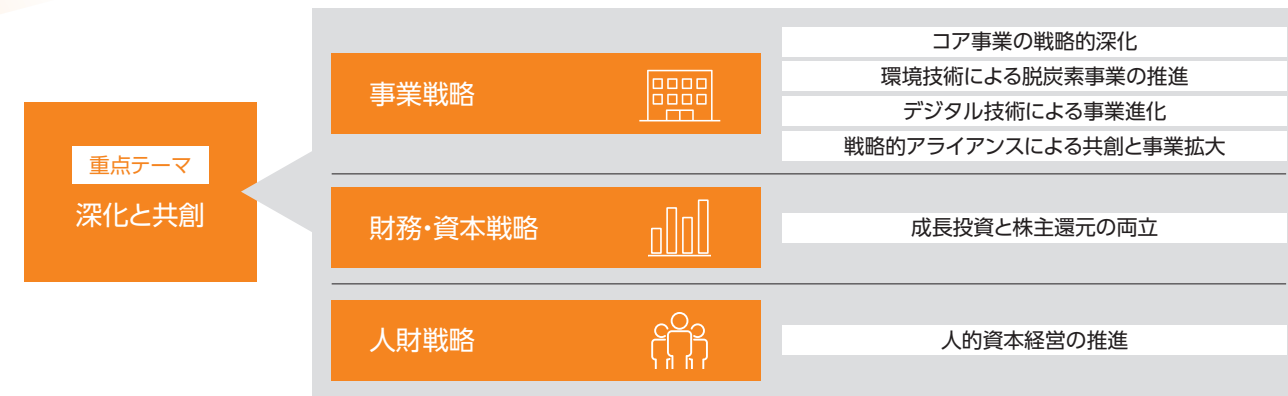
5つのマテリアリティ(重点課題)に注力したサステナビリティ経営の推進により、環境・社会価値の向上と企業価値(経済価値)の向上を両立させるCSV(Creating Shared Value:共有価値の創造)を実現



・2030年 ありたい姿・目標



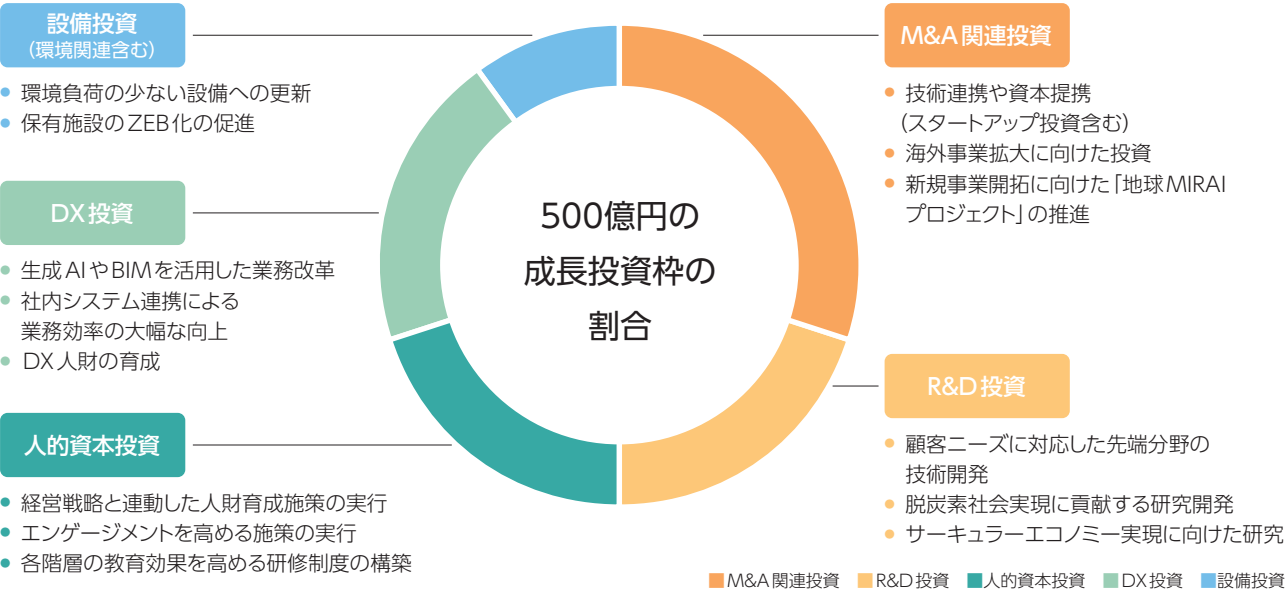
・「中期経営計画2027」の重点テーマと戦略骨子



●成長投資戦略

ありたい姿・目標を実現させるための
成長投資枠の考え方

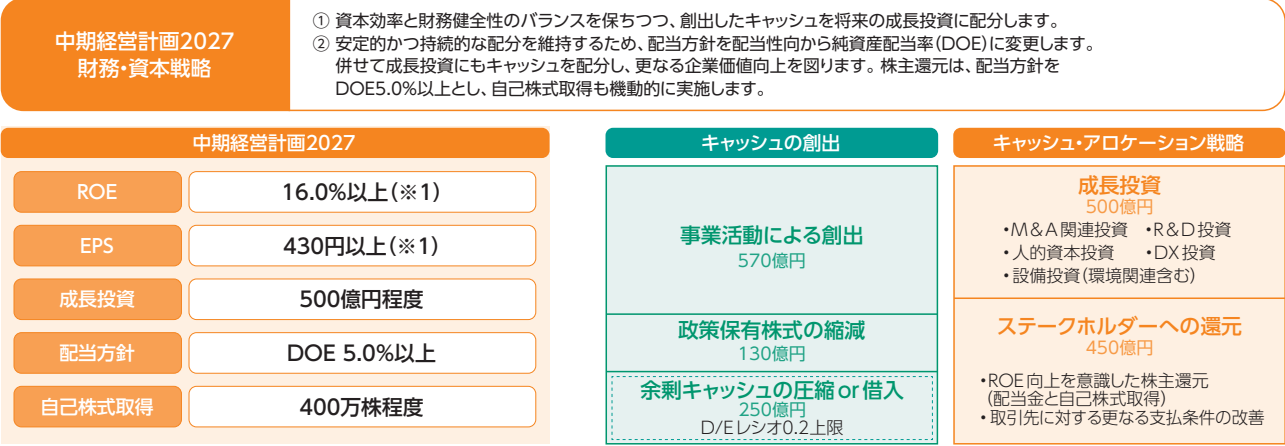
「中期経営計画2027」では、500億円の成長投資枠を設定し、5つの重点分野に積極的に投資を行う



戦略的アライアンスによる共創と事業拡大

海外		国内	
建築設備事業	・東南アジアでの提携候補先企業の開拓・出資	ファシリティシステム事業	・業務・資本提携やM&Aを活用したソリューション開発 ・商業施設ディベロッパーとの連携強化による新市場開拓
機械システム事業	・海外市場開拓を目指し、以下2分野でのアライアンス強化 ①空港向け設備・サービス分野 ②電池製造分野	機械システム事業	・プロセス・試験装置メーカーとの提携による事業拡大
環境システム事業	・海外パートナーとの連携による水処理技術・製品のアジア展開	環境システム事業	・廃棄物処理事業の規模拡大に向けたM&A

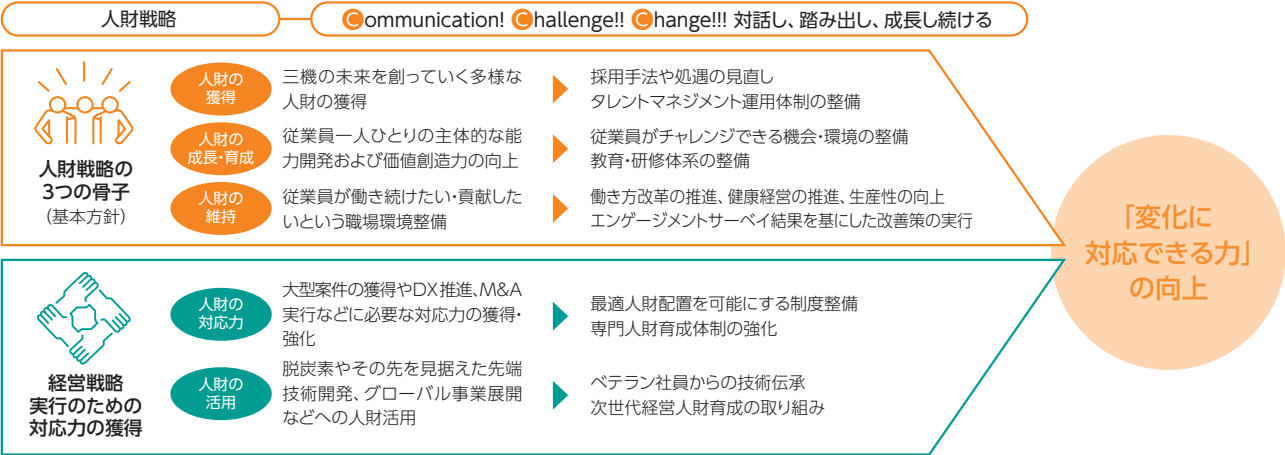
●財務・資本戦略



(※1)ROE、EPSは政策保有株式の売却益除く

●人財戦略

全体として経営戦略を実行するために取り組む重点テーマを「人財戦略の3つの骨子(基本方針)」として定め取り組んでいく。さらに、経営戦略実行のために獲得が必要な対応力を特定し、「変化に対応できる力」の向上を目指す。



100周年記念スペシャルサイト開設

100周年を記念して、スペシャルサイトを開設いたしました。これまでの歴史を映像で紹介する「講談・風雲三機の巻」のほか、幅広い事業領域の古今東西のニュースなどをまとめた「三機世紀新聞」、三機のDNAをゲーム感覚でわかりやすく解説する「クイズ100人に聞いてみた!」など、ユニークなコンテンツたっぷりでお届けしています。ぜひご覧ください。

スペシャルサイトの主なトピック

100年の歴史をひもとく スペシャルムービー 「講談・風雲三機の巻」



社員100人にホンネのアンケートを実施! 「クイズ100人に聞いてみた!」



100周年記念 スペシャルサイトは こちら



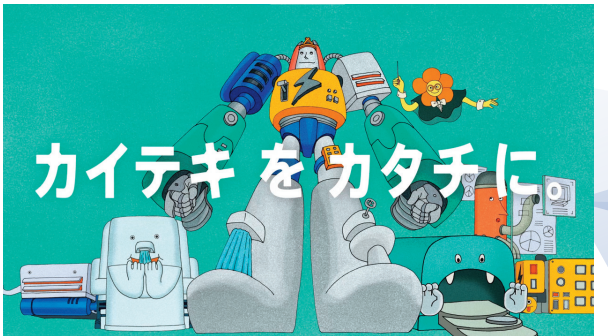
三機工業の100年を 詰め込んだ 「三機世紀新聞」

100周年新広告・新キャラクター紹介

創立100周年を迎えるにあたり、企業広告・CM「カITEキをカタチに。」シリーズの第4弾「省エネ篇」を制作し、コーポレートサイトに公開しています。また、主要都市の交通機関や駅、全国各地の公道やショッピングモール内、ならびに新聞やテレビなど各種メディアでも順次公開しています。

新広告・CMのコンセプト

「脱炭素社会への貢献」をマテリアリティの一つとして掲げており、お客様への省エネルギー提案や関連事業の推進など、積極的に省エネルギー活動に取り組んでいます。その活動を効果的に社内外に周知・浸透させるため、新広告・CMでは“省エネ”をメインテーマに、キャッチコピー「次の100年も、カITEキをカタチに。」のとおり、総合エンジニアリング企業である三機工業が、全社一丸となって未来に向かって邁進していくことをコンセプトとしています。



シリーズ第4弾では、従来のキャラクターに加え、当事業の省エネ化を司るエコロジーの司令塔“エコ・マエスチョロ”が登場。指揮棒片手に各事業の潜在能力を引き出し、省エネ化を図るという役割を担っています。キャラクターデザインは当社社員の原案がベースとなっており、様々な設備の間を飛び回り分析し、総合的に省エネ提案をしていくイメージから生まれました。

さらに、エコ・マエスチョロに魔法をかけられたようにキャラクターそれぞれが進化を遂げ、一つのロボット“快適戦士サンキロボ”に合体します。三機工業が全社一丸となって、カーボンニュートラルなどのあらゆる課題に向き合い、未来を“カITEキ”にしていこう姿勢を表現しています。



新広告・CMの詳細は、こちらをご覧ください。

物流効率を向上させる最先端貨物システムを構築

成田国際空港 第8貨物ビル

全日本空輸株式会社(ANA)の貨物輸送事業を支える新たな拠点として、成田空港第8貨物ビルの「ANAカーゴハンドリングシステム新設工事」が実施されました。当社は、第8貨物ビルから飛行機の駐機エリアへ貨物を搬送する設備、ETVのラックシステム一式の施工を担当し、効率性と信頼性を兼ね備えた物流システムを構築しました。

空港独自の厳格なセキュリティ基準や大型重機の使用に伴う安全対策が求められるなかで、本プロジェクトの鍵となったのは他社との強力な連携でした。例えばETVラックの搬入は天井施工前に行う必要があるため、建屋の設計・施工を担う設計会社・建築会社との綿密な工程調整が欠かせません。さらに、空港貨物ビルはその特殊性から施工頻度が少なく、同様の経験を持つ技術者が当社や協力会社にも少ない状況でした。そのため、各社が積極的に情報を共有し



▲成田空港第8貨物ビル外観

経験値を補完し合いながら進めることで、課題を克服し竣工を迎えることができました。

なお、今回の施工では作業の様子をタイムラプス映像で録画するなど、資料をわかりやすい形式で記録。今後、同様のプロジェクトに携わる際には、よりスムーズな進行為可能となります。

これからも当社は、お客様の信頼に応える高い技術力と安全・高品質な施工を提供することで、今後ますます需要が増加し続ける航空貨物業界の発展に貢献してまいります。



▲処理能力を向上させたETVが2台稼働



現場担当者の声

左から順に、
機械システム事業部
大和プロダクトセンター技術部
富澤潤二、芹田淳、野上耕平
機械システム事業部 システム部
小山内浩昭
機械システム事業部 設計部
集貝基成

第7貨物ビルをはじめ、成田国際空港の搬送設備工事ですべてに培った知見も踏まえ、お客様への綿密なヒアリングと提案を実施。具体的かつ、お客様のニーズにあった仕様の確立に努めました。

工事の実施段階においては、通常はあまり使用しない大型重機を扱うこともあり、いつも以上に安全管理を徹底。

実用段階のことも踏まえて、交換しやすい部品を採用することでメンテナンス性も向上させました。

※担当者の所属につきましては、当時のものを掲載しています。

天神の発展を支える次世代型複合ビルの建設に貢献

天神ブリッククロス

福岡市の中心部である天神エリアでは、現在「天神ビッグバン」と呼ばれる再開発プロジェクトが進行中。その中核的存在となる「天神ブリッククロス」の建設工事において、当社は空調、衛生、電気設備の施工を担当しました。

空調設備では、貸事務室内の気流解析を実施し、快適な室内環境を実現。テナントごとの空調ニーズに応えるため、個別空調システムを採用し、各エリアの最適な環境を整えています。

衛生設備では、福岡市が推進する再生水利用に対応。地下水槽に再生水を貯留し、トイレ洗浄用水として活用するシステムを構築するとともに、高い水損防止機能と消火性能を両立させた負圧湿式予作動スプリンクラー設備を設置。万が一の誤作動時でも水損事故を防止する、先進的なシステムを実現しました。



▲天神ブリッククロス外観

電気設備では、災害時にも事業継続が可能なシステムを採用。さらに、事務所エリアでは明るさセンサーによる自動調光システムを導入し、省エネルギー化と快適性を両立しました。

今回の建設工事は、三機工業の総合力が発揮されたプロジェクトです。空調、衛生、電気の各分野で、効率性や快適性、防災性を兼ね備えた信頼度の高い設備を提供し、地域の発展に貢献しました。

これからも当社は、未来の都市づくりを支える技術と施工を通じて、地域の活性化と持続可能な社会の実現に寄与してまいります。



▲自動風量測定ロボット(当社開発)



現場担当者の声

左から順に、
九州支店 建築設備技術2部
中山敬悟、上床聡、
古賀武蔵、富田猛生

天神エリアでは再開発が同時多発的に進行し、現場作業員の確保のため多くの協力会社を動員したので、現場全体の統率を重視しました。合わせて、基準フロアが均一な仕様となるように最初のフロア施工に時間をかけて、仕様や工法を徹底的に決め込みました。そして、さまざまな問題を解決した上で、その後の工事を効率化し、スムーズな施工進行を可能にしました。

※担当者の所属につきましては、当時のものを掲載しています。

より詳しいIR情報はこちら
<https://www.sanki.co.jp/ir>

三機工業

検索

連結貸借対照表の概要

単位：百万円

科 目	前期末 (2024年3月31日現在)	当期末 (2025年3月31日現在)
流動資産	131,564	138,834
固定資産	70,596	62,005
資産合計	202,161	200,839
流動負債	81,597	82,283
固定負債	15,941	12,175
負債合計	97,539	94,458
純資産合計	104,621	106,380
負債純資産合計	202,161	200,839

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

科 目	前 期 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)	当 期 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,285	29,725
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,174	1,897
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,069	△11,398
現金及び現金同等物の期末残高	23,500	43,848

株式の状況 (2025年3月31日現在)

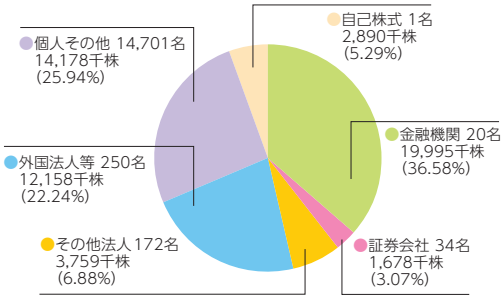
発行可能株式総数	192,945,000株
発行済株式総数	54,661,156株
株主数	15,178名

大株主 (2025年3月31日現在)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,473	12.50
明治安田生命保険相互会社	5,140	9.93
三機共栄会	3,088	5.96
大樹生命保険株式会社	2,951	5.70
日本生命保険相互会社	2,188	4.23
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,051	3.96
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー 505001	1,809	3.50
三機工業従業員持株会	1,506	2.91
JP モルガン証券株式会社	699	1.35
株式会社大分銀行	644	1.24

(注) 当社は自己株式2,890千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況 (2025年3月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
株主確定基準日	(1) 定時株主総会 3月31日 (2) 期末配当金 3月31日 (3) 中間配当金 9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めております。
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。(当社ホームページ https://www.sanki.co.jp/ に掲載します。)
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店(コンサルティングオフィス・コンサルプ ラザを除く)で行っております。
「配当金領収証」に よる期末配当金の お支払いについて	第101期期末配当金は、「配当金領収証」により、払渡し 期間内(2025年6月27日から2025年7月31日まで) にお受け取りください。
上場株式配当等の支払 に関する通知書について	「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく 「支払通知書」を兼ねております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等の
お申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました
株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行
株式会社にお申出ください。